昭和26年3月12日第3種郵便物認可　平成26年9月1日発行（毎月1日発行）第64巻 第9号
ISSN 0913-9850

2014 Vol.64
9月号

MONTHLY

かもつ

流通政策研究会に協会の取組みを説明

アパレル業界の鉄道コンテナ利用
ワコール流通株式会社

公益社団法人 鉄道貨物協会
日本貨物鉄道株式会社

公益社団法人 鉄道貨物協会

我が国の貨物輸送の分野について、物資の安定・供給及び地球環境負荷（輸送量当りのCO_2排出量）の観点から、輸送方法の研究及び研究成果の普及啓発活動を行い、以って国民の生活に不可欠な物資の安定供給及び地球環境の保全に資することを目的とする。

JR貨物

価値を運ぶネットワーク

私達は鉄道貨物輸送を基軸としてその未来における新しい役割を認識するとともにより総合的な物・価値・情報の交流を創造しお客様の信頼に応え豊かな社会の実現に貢献します。

Index

表2 土木・建築遺産

1 流通政策研究会に協会の取組みを説明
2 エコレールマーク認定証贈呈式を開催
日東工業株式会社 中津川工場
3 本部委員会「航空貨物施設・防振パレット現地調査」
6 国土交通省に要望書を提出
エコレールマーク看板設置の拡大
高松貨物ターミナル駅
7 支部自慢　新潟支部
8 JRおおみや鉄道ふれあいフェア開催　東京支部
9 いいね! 星川でクールシェア!!開催　東京支部
レールエキスポ京都に出展　近畿支部
10 本部及び18支部お問合せ窓口一覧

12 FREIGHT EYE

14 会員企業紹介
エア・ウォーター株式会社　エコ・ロッカ事業部
15 協会ニュース／リフレッシュクイズ

16 モーダルシフト　ワコール流通株式会社
20 貨物駅の仕事ガイド　南松本駅
22 SPOTLIGHT　株式会社丸和通運
24 トピックス
表3 今月号の「表紙写真」　今月号の「FREIGHT EYE」
JR貨物輸送概況

流通政策研究会に協会の取組みを説明

●期日：平成26年7月28日（月）　●場所：如水会館（東京都千代田区）

当協会は7月28日に物流専門紙13社から構成される流通政策研究会の会員会社を招き、昨今の取組みについての説明を行いました。

始めに、6月3日に当協会第二代目名誉会長に経団連の榊原会長が就任したことを報告するとともに、歴代経団連会長の多くの方が当協会のトップとして発足当初からご就任いただいている経緯などを説明しました。

続いて、当協会のベーシックな取組みである本部委員会活動については、今回「平成25年度本部委員会報告書」の4つの取組みテーマから、利用促進委員会の「大型トラックドライバー需給の中･長期見通しに関する調査」では、2020年度にはトラックドライバー（大半が大型）が10万人以上不足する予測が、また輸送品質向上委員会の「荷擦れ･荷崩れ対策としてのコンテナの内装及び養生材に関する調査研究と提案Ⅱ」では、キリンビバレッジ（株）様が段ボール箱にノンスリップニスを塗布することにより、荷擦れ事故を防止した取組み事例の調査研究活動等が注目されていることなどを紹介しました。

エコレールマークの推進活動については、今年新たにエコレールマーク認定を取得し、商品パッケージに直接マークの印字された商品が7月から一般店頭で販売開始されている亀田製菓（株）様の「亀田の柿の種」を出席者各位に配付するなど、マーク入り商品が拡大していることを紹介しました。

貨物時刻表については、出席者の方々に2014年版の現物を手に取っていただきながら、単なる貨物列車の時刻表にとどまらず、鉄道貨物輸送の総合ガイドブックとして広く読者の方に活用していただけるような構成で作成しており、隠れたベストセラーとなっていることなどを紹介しました。

最後に、教育現場に鉄道貨物輸送やエコレールマークを浸透させることをねらいとしたエコレールマークの出張型教室は、今年度も継続して取り組んでいくことや、今後も将来を見据えて、国民的財産である鉄道貨物輸送が広く国民に認知されるよう取り組む方針を表明しました。

説明終了後、出席者より「ノンスリップニスについて詳しく教えていただきたい」などの活発な質疑応答が行われました。

今回の説明会は初めての試みでしたが、当協会からの情報発信を行う良い機会となりました。

（注）ノンスリップニスに関しては、MONTHLYかもつ2013年8月号の2～5ページ（本部委員会合同企画）をご参照下さい。

米本理事長より説明

流通政策研究会会員会社より9社･10名が出席

松下常務取締役へ取組企業認定証を贈呈

エコレールマーク 認定証贈呈式を開催

企業認定・商品認定取得
日東工業株式会社 中津川工場

伊藤常務取締役へ商品認定証を贈呈

ハンドブックを用いながらエコレールマーク制度を説明

商品認定を取得した
「日東工業製キュービクル」

5月19日(月)に日東工業株式会社本社会議室(愛知県長久手市)において、エコレールマーク認定証の贈呈式が行われました。

同社中津川工場(岐阜県中津川市)はキュービクルの主要生産拠点であり、環境負荷の低い鉄道へのモーダルシフトの取組みにより、第30回エコレールマーク運営・審査委員会(平成26年2月27日開催)において、エコレールマーク取組企業に認定されるとともに「日東工業製キュービクル」が商品認定を取得しました。

式では、当協会中村エコレールマーク事務局長より同社松下常務取締役へ取組企業の認定証を贈呈し、続いて同社伊藤常務取締役へ商品認定の認定証を贈呈しました。

その後、各部より代表者が参加して、エコレールマークについての勉強会が開催されました。最初に当協会よりハンドブックを用いながらエコレールマーク制度全般についての説明を行い、次にエコレールマークの具体的な使用方法や他社の活用事例などを紹介し、説明内容について活発な意見交換が行われました。

既に同社は、所有する12フィート私有コンテナにエコレールマークを掲出し、環境に配慮した企業であることを広く社会にアピールされておりますが、今後一層エコレールマークをご活用されるとともに、制度の認知度向上にも貢献いただけることを期待いたします。

本部委員会「航空貨物施設・防振パレット現地調査」

日本通運(株)成田第三物流センター正門前での記念撮影

平成26年度 第3回輸送品質向上委員会は、7月23日、次の内容にて開催された。

1. 内容

A.『日本通運㈱東京航空支店成田第三物流センター』を訪問（物流施設見学、防振パレットの現地調査）

B.『成田国際空港貨物地区内「日本航空株式会社」』を訪問（航空貨物施設の見学）

2. 目的

平成26年度輸送品質向上委員会の年間テーマ「鉄道コンテナ輸送の輸送品質向上に向けた荷擦れ・荷崩れ対策に関する調査研究と提案」に基づく現地調査に加えて、日本通運㈱が開発された「航空機搭載用防振パレット」の現物を視察し、その防振メカニズムを解説いただくことにより、今後の委員会審議、そして今後の防振資材の調査研究に資する。

また、本委員会は、利用促進委員会より**希望委員が参加する「本部委員会合同企画」である。**

3.『日本通運㈱東京航空支店成田第三物流センター』の概要

A. 成田空港貨物地区から車で約15分の野毛平工業団地に、同社の成田空港物流センター一般棟、生鮮貨物専用棟、第二物流センター、第三物流センターの4拠点（敷地面積96,358㎡）があるが、今回は第三物流センターを訪問した。

B. 第三物流センターの特色は次のとおりである。

（1）敷地面積：35,730㎡、倉庫面積20,110㎡

（2）主要設備：大型冷蔵庫、大型冷凍庫、ULDワークステーション（4基）、油圧トラックレベラー（3基）、入退場管理システム、監視カメラ

（3）**【認証取得】TAPA-CLASS A、AEO保税倉庫（特定保税承認者）ISO 9001**

（4）万全のセキュリティ体制、最新鋭の設備で、ハイスピードロジスティクスに対応する、輸出航空貨物専用CFS

（5）ULDビルドアップも自社で行い、輸出貨物の一貫オペレーションが可能である。

（注）1. ULD：Unit Load Deviceの略 航空貨物を一定の単位にまとめ、航空機の貨物室に搭載するための用具の総称。具体的にはパレットやコンテナなど。

2. TAPAは、Transported Asset Protection Associationの略で、警備の専門家とハイテクや家電関係企業の警備担当者が参画する非営利団体として、1997年に米国で設立されています。このTAPAによる基準は、輸送産業で安全性を高めるためにも使用されており、世界中で警備、安全の実践手法における最高峰のガイドラインとして知られています。ハイテク関連の企業を中心にTAPA基準を満たすよう求められるようになってきています。TAPAの基準は3段階に分かれており、その要求するレベルにより最上級のClass Aから最小限の基準であるClass Cまであります。（日本通運(株)ホームページより抜粋）

4. 同センター見学、現地調査の内容

A. 同センター内の会議室にて、同支店成田輸出センター長の水本様より、ご挨拶と同センターの施設概要についてご説明を受ける。

B. 同支店国際貨物部商品企画課の定月係長より、会議室にて（1）防振パレット、（2）GLOBAL CARGO WATCHER（GCW）、についてご説明を受ける。

C. 参加人数が、37名であったので、2班に分かれ、同施設内に移動し、（1）防振パレットの実機の見学と機能の解説と（2）同センター内の冷凍・冷蔵庫等の設備やULDビルドアップ作業の説明をそれぞれ交互に受ける。

施設概要を説明される水本センター長

施設概要を視聴する委員

5. 防振パレット**【特許取得済み】**について

A. (1)高さ：25cm、(2)縦×横：147cm×110cm、(3)重さ70kg、(4)材質:アルミニウム、(5)防振機能：**特殊ダンピングコイルバネを使用**、(6)防振効果：適正重量に対して、**75%以上の衝撃低減効果**あり、(7)サイズ･重量帯域ともにカスタマイズ可能

B. 開発の経緯

(1)いままでもダンピングコイルバネの防振パレットは、10年以上前から使用していた。しかしながら、1t用の防振パレットは、1tの貨物にしか対応できない専用パレットとなっていた。例えば、700kgの貨物であれば、300kgのウェイトを搭載して、1tの貨物とし、防振パレットの最大効果を発揮出来る重量帯で輸送していた。しかしこれでは、300kg分の運賃を余計に支払うことになり、コスト高になっていた。

(2)そこで、幅広い重量帯、例えば500kg～1t、1t～2t(倍数)までの重量帯で同等の効果を発揮出来る防振パレットの開発に2年前より着手して来た。

(3)着目したのは、バネの間隔である。不等ピッチバネを用いる事によって、幅広い重量帯の振動を吸収できることが出来た。衝撃を約75%吸収できる。(一般的な防振パレットは30%の振動低減が限度といわれている)

　このバネについては、日本では特許取得済みであり、中国等においても**特許出願中**であり、他の業者が無断で使うことは出来ない。また、バネの回りは、アクリル製の単一素材で覆ってあり、経年劣化が無く、耐久性があり、バネとともにメンテナンスフリーである。

C. 防振パレットの引き合い状況について

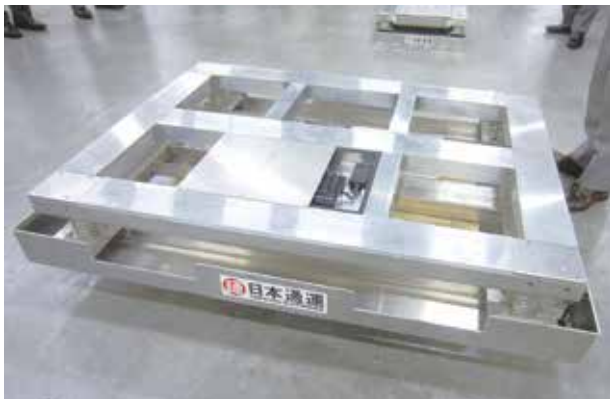
　衝撃に非常にセンスティブな半導体輸送に実績を上げることが出来た、また、精密機器、医薬品については、当然想定されたが、予想もしていなかった「生鮮品、鮮魚、いちご、桃、ロール紙、食品、飲料メーカー」なども引き合いが来ている。

D. 当日の質疑応答内容(Q&A)について(誌面に限りがある為、抜粋)

Q. (委員)防振パレットの耐久性について、何年程度で設計されているのか?

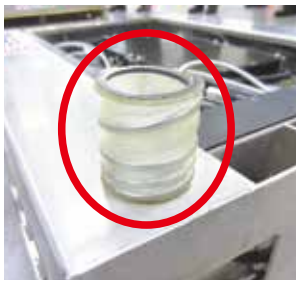
A. (定月係長)当社が想定しているのは2～3年である。しかし、我々が今回の防振パレットを展開する以前から、バネ独自では既に展開されており、10年程度使用していただいている顧客もいる。つまり、「当社で想定している補償期間は2～3年だが、バネ独自では10年程度ご使用いただいている実績がある」ということである。

　また、メンテナンスについて、バネに巻き付けて



防振パレット(全景)

ダンピングコイルバネ



バネとバネの間隔が
不等(不等ピッチ)である

防振パレットの機能を解説する定月係長

防振パレットを興味深く覗き込む委員の皆さん

いる膜は経年劣化がない性質であるので、基本的にはメンテナンスフリーということでご案内している。粘弾性のある膜であり、仮にフォークリフトで穴を開けてしまった場合でも、自己修復性がある素材であり、自ら動く事で膜の破損を修復することが可能である。

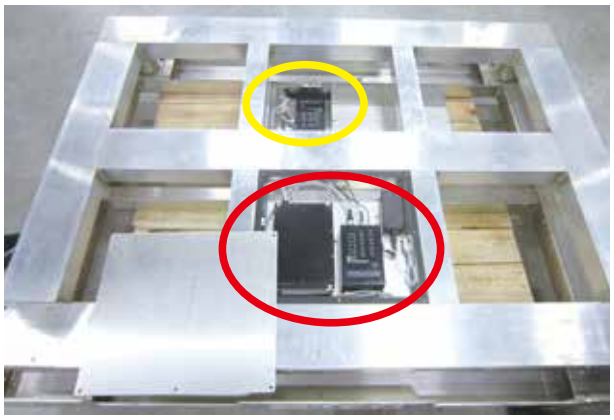
A.（日通総研：中嶋所長）「粘弾性体」という膜だが、性質的には接着剤に近いことから、自己修復性がある素材になっている。穴が空いた場合でも、膜自体で接着していく性質がある。

Q.（委員）防振パレットの自重と回送方法は?

A.（定月係長）自重は70kg。スチール製の場合は重量が増加するが、航空輸送用ということで軽量化を図っている。保管時には段積みが可能である。航空便で米国に到着後、海上輸送でパレット回送する場合もある。今回ご覧いただいている防振パレットは、上段と下段で隙間があるタイプだが、最新型は上下で同じ大きさとなっている。航空会社にも搬入して保管していただいているが、その場合も段積みして保管されている。

6. GLOBAL CARGO WATCHER（GCW）**【ビジネスモデル特許取得済み】**について

A. 同社輸送追跡システム「Air-Trail」から、輸送中の位置・温度・衝撃状況をリアルタイムに把握できる、画期的な輸送サービスである。



防振パレット内に設置されたGLOBAL CARGO WATCHER（GCW）のデーター・ロガー（記録装置）の場所。黄色の部分は、コイルばねの下部、赤い部分はコイルばねの上部に、それぞれ設置されている。

B. **温度・加速度センサー、3G・GPS受信機**により、貨物の**温度推移・位置関係・衝撃を記録し、同社専用WEBサイトから状況が確認**できる。

7. 同センター見学・現地調査終了後、再び会議室に集合し、全体の質疑応答を行った後、成田国際空港貨物地区第5貨物ビルへ移動し、「日本航空株式会社（JAL）」の輸出貨物上屋を見学させていただいた。

8. JAL第5貨物ビル上屋の見学内容

日本通運㈱東京航空支店のご紹介で、同上屋を見学させていただき次の説明を受けた。

A. 同上屋内に搬入された輸出用の航空貨物（含、冷凍・冷蔵）は、基本的に24時間以内に航空機に搭載される。

B. JALが、本年5月に480台導入した世界で最先端の新型軽量コンテナを見学した。

（1）同コンテナは、1台あたり100kg近くあるアルミタイプのコンテナと比較して1台あたりの重量が58kgと軽量化された。ボーイング777-300ER型機の場合、同サイズのコンテナを44台搭載可能なため、仮に全て新型軽量コンテナを搭載した場合、大幅な軽量化が実現し、成田～ニューヨーク線等長距離となると相当な燃油費が節約できることになる。

（2）また、素材に合成樹脂を使用し、ハニカム構造となっているため、アルミに比べて強度が非常に高く、耐久性に優れているので、修理の頻度も減少し、費用も削減できると見込んでいる。

（注）ハニカム構造とは、正六角形・正六角柱を隙間なく敷き詰めた構造。英語「honeycomb（蜂の巣）」が語源（JALホームページより抜粋）

同上屋内にあるJAL新型軽量コンテナ

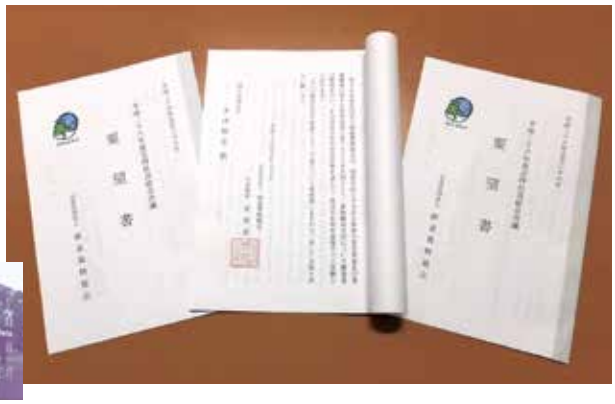
新型軽量コンテナをバックにした集合写真

国土交通省に要望書を提出

●期日：平成26年7月22日（火）　●場所：国土交通省（東京都千代田区）

平成26年度定時社員総会で承認されました「政府等関係機関への要望書」を7月22日（火）に国土交通省へ提出しました。提出にあたっては、当協会米本理事長以下幹部が国土交通省へ出向き、国土交通大臣、国土交通事務次官、国土交通審議官、大臣官房物流審議官、総合政策局長、鉄道局長及び鉄道局次長・総務課長・鉄道事業課長・総務課貨物政策室長の計10名に米本理事長より提出しました。

今回の要望書では当協会会員の総意として、「輸送ニーズに応えた鉄道貨物輸送を支えるインフラの整備」、「モーダルシフトに関するソフト面での具体的支援策の創設」、「鉄道貨物輸送と国際物流の関係強化」、「整備新幹線延伸により、鉄道貨物輸送の安定性に支障を来たさないための措置」、「エコレールマーク事業の推進」の5項目について要望し、確固たる措置を講じていただくよう要請しました。また、本誌7月号で掲載した要望書に関する直近の状況については、米本理事長より補足として説明を行いました。



※政府等関係機関への要望書全文は、本誌6月号6ページに掲載されています。

エコレールマーク看板設置の拡大

～高松貨物ターミナル駅編～

本誌8月号で隅田川駅に設置されたエコレールマーク看板についてご紹介しましたが、続いて高松貨物ターミナル駅に新たに設置されたエコレールマーク看板をご紹介します。

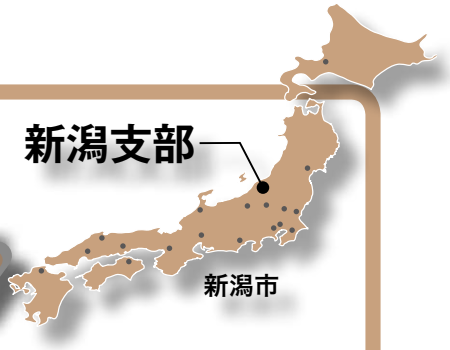
より視認性が高く効果的な場所に看板を設置すべく関係者で検討した結果、同駅の看板はフェンスではなく、建物に設置することになりました。検修庫の二階窓ガラスを活用することとし、イラストつきの「四国桃太郎貨物駅」看板横のスペースに、環境にやさしい鉄道貨物輸送をよりアピールするため、「地球にやさしい」というフレーズとともにエコレールマーク看板を並べて設置しました。

「地球にやさしい」の文字は駅社員の手で直接ガラスに貼り付けを行い、エコレールマークの方は窓ガラス2枠分にかかるため、窓枠にステンレス板を取り付け、その上にステッカーを貼り付けるという工事を施工しました。

当看板の向かい側には道路や大きな病院などがあり、多くの人の目に触れる場所にありますので、環境にやさしい鉄道貨物輸送とエコレールマークをより多くの方々にアピールできることを期待しています。

当協会は今後も全国展開を図り、設置拡大を推進して参りますので、関係方面のご協力をお願いいたします。

支部自慢（しぶじまん）



●新潟支部は新潟駅ビル2FにあるJR貨物新潟支店内に事務局を構え、西は新潟県上越市から北は山形県酒田市までの鉄道キロで約300kmと広範囲で活動をしています。

●日本一長い信濃川が潤す越後平野に新潟市があり、いくつかの見所をご紹介します。

みなとぴあ

旧新潟税関庁舎

信濃川と阿賀野川の二大大河に開けた新潟市は、かつていくつもの堀が張り巡らされた水の都でした。堀に沿って柳の木が植えられ、その景観の美しさから柳の街「柳都・りゅうと」と呼ばれました。当時の様子を感じられる建物、旧新潟税関庁舎、旧第四銀行住吉町支店、新潟市歴史博物館が建ち並び、お堀を再現し古き町並みと風情を味わうことができます。

旧第四銀行住吉町支店

堀と柳の木

朱鷺メッセ

朱鷺メッセの全景は信濃川に浮ぶ大きな船のように見えます

信濃川河口付近に所在する国際会議も開催されるコンベンションセンターとホテル・業務施設などがある高層建造物から成る複合一体型のコンベンション施設の愛称です。ビルの31Fにある展望室からは新潟市内が一望でき、天気の良い日は佐渡島を望むことができます。

展望室から日本海を望む

信濃川に浮かぶヨットと新潟市街

朱鷺メッセ附近を通る「水上バス」

信濃川ウォーターシャトル

日本一の大河として知られる信濃川をめぐる観光水上バス「信濃川ウォーターシャトル」。「水上バス」と呼ばれる理由は、その料金の安さからでしょうか。約9キロの運行区間に7つの乗船場があり、四季折々に変わる河畔の美しい風景を船上から楽しめる観光遊覧船として、また気軽な水上バスとしてたくさんの観光客・市民に利用されています。

●美味しい物紹介

笹団子

新潟県特産の餡の入ったヨモギ団子を数枚のササの葉でくるみ、スゲまたはイグサの紐で両端を搾り中央で結んで蒸した和菓子です。紐を解き、バナナのように上半分だけを剥いた状態で下部を持ちながらかぶりつくように食べるのが一般的です。ササには殺菌効果があり、北越風土記によれば戦国時代に携行保存食として生まれたとされ、上杉謙信が発明したという俗説もあります。

枝　豆

新潟県と山形県が枝豆の栽培量の日本一を競い合っていますが、「だだちゃ豆」を含む山形県が日本一の栽培量を誇っています。これに対し、新潟県は消費量が日本一です。つまり、新潟県の人はたくさんの枝豆を栽培しますが、自分たちで食べてしまうのです。ビールに枝豆は最高ですが、お茶請けにも枝豆が登場します。

新潟支部　〒950-0086　新潟市中央区花園1-1-1　JR貨物新潟支店内　TEL：025-248-5151　FAX：025-248-5152

東京支部とJR貨物関東支社がイベントに共同出展

JRおおみや 鉄道ふれあいフェア開催

東京支部 ●期日：平成26年5月24日（土） ●場所：大宮車両所（さいたま市）

JR東日本大宮総合車両センターが操業120周年という節目の年にあたり、「鉄道のまち大宮 鉄道ふれあいフェア」として、さいたま市とJR東日本大宮支社の共同開催で、車両センターとJR大宮駅を中心とした複数の会場でイベントが行われました。

今年も当支部はJR貨物関東支社と共同で出展し、当日は天候にも恵まれ2万9,500人もの多くの人が訪れました。共同出展は今年で3回目となりましたが、「今年も来ました」というリピーターの方がいました。

実物のコンテナの中に認定商品を展示しエコレールマーク制度の説明を行いましたが、一般の方はコンテナの内部をなかなか見ることが出来ないので、興味深げに眺める来場者もいました。また、「エコレールマークちゃん」が愛嬌たっぷりに登場すると、来場者から記念撮影や握手を求められていました。

今回のイベント出展で鉄道貨物輸送についての理解を深めていただくとともに、エコレールマークの認知度向上に努めました。

イベント内容

蒸気機関車試乗会、ミニSL・ミニ新幹線の運転
おおみや市民吹奏楽団ソロコンサート
大宮警察署PR・大宮消防署PR
車体移動・運転室公開・モーター組立実演
鉄道模型の運転
鉄道車両部品・グッズの販売、福祉バザー
写真展示

車体移動実演

大宮工場・大宮車両所に入場した機関車を展示

いいね! 星川でクールシェア!! 開催

東京支部 ●期日：平成26年6月1日(日)　●場所：熊谷市星川シンボルロード(埼玉県)

「暑さ対策日本一」の埼玉県熊谷市にて、「2014年クールシェアくまがやキックオフイベント」が開催されました。「クールシェアくまがや」というのは、2012年から開始された「ひとり1台のエアコン使用をやめ、涼しい場所に集まって、みんなで夏を楽しく快適に過ごす」という取組みです。今年は屋外の会場で行われ、マスのつかみ取りやたらい舟下り、ミニ新幹線試乗会等が行われたほか、星渓園では熱中症予防セミナーが開かれ、大勢の親子連れで賑わいました。

当支部は、鉄道貨物輸送を利用することでCO_2排出量を削減し、温室効果ガスを低減することにより、地球温暖化対策につながることから当イベントに出展依頼を受けた、JR貨物関東支社と共同で出展をしました。

当ブースでは「エコレールマークちゃん」と一緒に、鉄道貨物輸送DVDの放映やエコレールマーク認定商品の展示、エコレールマークジグソーパズルを行いました。多くの地元の親子連れがジグソーパズルに参加し、「エコレールマークちゃん」のふっくらした手の握手も大人気で、鉄道貨物輸送の利用促進及びエコレールマークの認知度向上に努めました。

パズルを楽しむ来場者とエコレールマーク認定商品の展示

レールエキスポ京都に出展

近畿支部 ●期日：平成26年6月7日(土)･8日(日)　●場所：ボークス本社(京都市)

当支部では、6月7日･8日の2日間、JR貨物関西事業開発支店と共同で、「レールエキスポ京都」に出展しました。このイベントでは主に、鉄道模型メーカーの展示や鉄道会社のグッズ販売が行われ、2日間で延べ6千人が会場を訪れ、多くの鉄道ファンや家族連れで賑わいました。

当協会とJR貨物のブースでは、貨物時刻表とJR貨物グッズの販売を行いました。また、販売に合わせてMONTHLYかもつバックナンバーやエコレールマークのパンフレットを配布し、鉄道貨物輸送についてのPRを行いました。

1人でも多くの方に鉄道貨物輸送を知っていただけるよう、今後もこの様な活動を続けていきます。

貨物時刻表の販売

会場となったボークス本社

JR貨物グッズの販売

公益社団法人 鉄道貨物協会
本部及び18支部お問合せ窓口一覧

当協会は鉄道貨物輸送を通じ、「国民の生活に不可欠な物資の安定供給」と「地球環境の保全の実現」を目指しています。この趣旨に賛同し、当協会の運営をご支援していただける法人及び個人会員を募集しています。会員になっていただくとセミナー、講演会、見学会等の各種会合に参加でき、情報交換の場としてもご活用いただけます。

●入会手続き

①入会申込書に必要事項をご記入の上、入会希望の支部へご提出ください。(郵送またはFAX)
※入会申込書は当協会ホームページからダウンロードできます。また、各支部にもご用意しています。
②指定の口座へ会費をお振込みください。お振込み確認後、手続き完了となります。

●年会費(4月1日～翌年3月31日)

法人会員：1口18,000円　個人会員：1口7,000円　※入会金無料。
10月1日以降のご入会は、会費が半額になります。

14 米子支部

〒683-0027
米子市陰田町331-2
JR貨物　米子営業所内
TEL0859-34-2610
FAX0859-34-2195
担当：中村

10 静岡支部

〒420-0851
静岡市葵区黒金町4
JR貨物　静岡支店内
TEL054-284-2224
FAX054-281-0232
担当：太田

日比野事務局長

15 岡山支部

〒700-0023
岡山市北区駅前町2-1-7
JR貨物　岡山支店内
TEL086-225-1181
FAX086-222-5168
担当：大橋

11 名古屋支部

〒492-8143
稲沢市駅前1-9-3
JR貨物　東海支社内
TEL0587-24-3528
FAX0587-24-3569
担当：村田、丹羽

16 四国支部

〒761-8014
高松市香西南町347-2
JR貨物　四国支店内
TEL087-882-6931
FAX087-882-2896
担当：佐藤

17 広島支部

〒732-0057
広島市東区二葉の里3-8-21
JR貨物　広島支店内
TEL082-262-9239
FAX082-261-1497
担当：鴻池

12 北陸支部

〒920-0005
金沢市高柳町10-1-4
JR貨物　金沢支店内
TEL076-251-7164
FAX076-251-7426
担当：寺林

18 九州支部

〒803-0812
北九州市小倉北区室町3-2-57
JR貨物　九州支社内
TEL093-583-6245
FAX093-583-6266
担当：中筋、宇田

13 近畿支部

〒530-0012
大阪市北区芝田2-4-24
JR貨物　関西支社内
TEL06-6372-1773
FAX06-6375-8190
担当：大向

1 北海道支部

〒060-0011
札幌市中央区北11条西15-1-1
JR貨物　北海道支社内
TEL011-737-2717
FAX011-737-2727
担当：渡辺

2 東北支部

〒980-0022
仙台市青葉区五橋1-1-1
JR貨物　東北支社内
TEL022-227-2482
FAX022-266-4050
担当：髙橋

3 新潟支部

〒950-0086
新潟市中央区花園1-1-1
JR貨物　新潟支店内
TEL025-248-5151
FAX025-248-5152
担当：田村、大倉

4 宇都宮支部

〒329-0524
栃木県河内郡上三川町多功
上の原2970
JR貨物　宇都宮営業所内
TEL0285-53-1709
FAX0285-52-0319
担当：佐藤

5 高崎支部

〒370-0841
高崎市栄町6-26
JR貨物　高崎営業所内
TEL027-322-5464
FAX027-324-0126
担当：湯澤

6 水戸支部

〒310-0015
水戸市宮町1-1-21
JR貨物　水戸営業所内
TEL029-227-2113
FAX029-227-2147
担当：望月

7 千葉支部

〒260-0824
千葉市中央区浜野町1216
JR貨物　千葉営業所内
TEL043-266-4731
FAX043-266-4732
担当：平野

8 東京支部

〒141-0022
品川区東五反田1-11-15
電波ビル5F
JR貨物　関東支社内
TEL03-5793-9082
FAX03-5793-9178
担当：田中、笹屋

9 長野支部

〒380-0927
長野市栗田源田窪992-6
JR貨物　長野営業所内
TEL026-266-7230
FAX026-266-7231
担当：髙田

本部

〒101-0048
千代田区神田司町2-8-4
吹田屋ビル4F
TEL03-5256-0577
FAX03-5256-9220
担当：坂本

大野総括次長

エア・ウォーター株式会社

エコ・ロッカ事業部（長野プラント）

〒381-0102　長野市若穂保科3440-9

長野プラント看板

長野プラント全景

私どもエア・ウォーター株式会社は、その名が示すとおり、空気と水という大切な資源を預かり、製品やサービスに変えて提供し、再び自然に戻すという大きな循環を、企業活動における基本理念とし、多様な事業を展開しています。そんな私どもにとって、廃木材と廃プラスチックを原料とする木材・プラスチック複合材（WPC：Wood-Plastic Composites）「エコ・ロッカ」は、最も力を注いでいる事業の一つであり、また、環境保全に対するニーズがますます高まる中、大きな成長が期待できる事業でもあります。

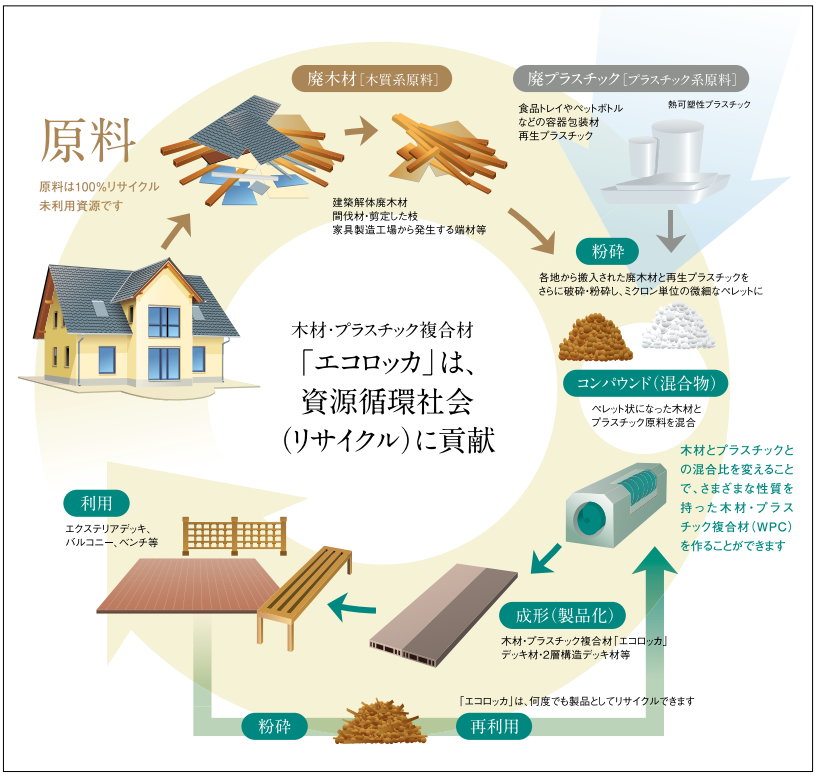
WPC「エコ・ロッカ」

廃棄物として発生した「木材」と「プラスチック」を原料にして生まれる新素材、それが「木材・プラスチック複合材（WPC）」です。WPCは、リサイクル原料を使用しているだけでなく、それ自体何度でもリサイクルが可能な環境配慮型新素材。木材とプラスチック双方の優れた特質を兼ね備え、主にエクステリア及びインテリア材料として多方面で活用されています。

その特徴としては、（1）原料となる廃木材を微粉砕するので、トゲやささくれが発生しない安心素材である、（2）耐候性に優れ、シロアリや腐朽菌も寄せ付けない長期の耐久性を有する、（3）表面のサンディング等の簡易なメンテナンスにより美観を長期に保てる、などがあります。

「エコ・ロッカ」は、エア・ウォーターが生産しているWPCの製品ブランド名です。

「エコ・ロッカ」という名称は、「エコロジー」とアマゾン川で海の満潮時に水が逆流する現象「ポロロッカ」を組み合わせた造語です。その名前には、「水が流れを遡るように、廃材を再び製品へ循環させたい」という、私どもエア・ウォーターのWPCにかける強い想いが込められています。



エコ・ロッカ循環図

エコ・ロッカ製造風景

「エコ・ロッカ」生産・供給拠点「エコ・ロッカ 長野プラント」

長野県の北部、近くに千曲川が流れ、背後に緑豊かな山々が連なる場所に、エコ・ロッカ事業の拠点「エコ・ロッカ　長野プラント」があります。本プラントはWPC「エコ・ロッカ」の一貫生産工場。国内最大級の生産能力を誇り、その製品は全国各地に出荷されています。

そのうち、九州方面や北海道方面などの長距離の輸送については、鉄道コンテナを利用した鉄道貨物輸送も活用しています。

未来に向けて

私どもエア・ウォーターは、WPCの分野にいち早く進出した企業として、その先進の技術とノウハウの蓄積を活かし、また、研究開発にも積極的に取り組みながら、より優れた「エコ・ロッカ」製品を開発提供してまいります。そして、常にWPCの新たな可能性を切り拓き、普及を促進するリーディングカンパニーとしての役割を果たしたいと願っています。今後とも皆様方のご愛顧とご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

エコ・ロッカ使用例

協会ニュース

平成26年9～10月 行事等の予定

本　部

9月　3日(水)／会誌編集委員会(本部会議室)
9月　7日(日)／JR貨物フェスタ2014アリオ北砂(江東区)
9月17日(水)／第4回利用促進委員会(本部会議室)
9月19日(金)／第4回輸送品質向上委員会
(東京貨物ターミナル駅見学)

10月　1日(水)／会誌編集委員会(本部会議室)
10月15日(水)／第5回利用促進委員会(本部会議室)
10月17日(金)／第5回輸送品質向上委員会(本部会議室)
10月18日(土)･19日(日)／Act Green ECO WEEK 2014
(越谷市･イオンレイクタウン越谷)

お知らせ

紀伊國屋書店 高松店において、8月1日より貨物時刻表の取扱いを開始しました。これにより貨物時刻表取扱い書店は、全国で42店舗になりました。

●紀伊國屋書店 高松店
高松市丸亀町1-1 高松丸亀町壱番街3F
電話：087-811-6622
営業時間：11:00～20:00

ジュンク堂書店 秋田店で、歴代貨物時刻表表紙のパネル展示を、9月2日(火)～11月2日(日)まで仙台TR店･郡山店に引き続き行います。皆さまお誘い合わせの上、足を運ばれてはいかがでしょうか。

●ジュンク堂書店 秋田店
秋田市千秋久保田町4-2 秋田フォーラス6･7F
電話：018-884-1370
営業時間：10:00～20:00

支　部

●東北支部
9月18日(木)／コンテナ見学会 (仙台貨物ターミナル駅)
9月20日(土)／魅力いっぱい交通フェスタ2014(仙台市役所前庭)
10月　5日(日)／ふれあいin東北 (仙台貨物ターミナル駅)
10月11日(土)･12日(日)／鉄道フェスティバル
(郡山市･郡山ふれあい科学館)

●新潟支部
9月10日(水)／利用促進会議･上、中、下越地区輸送協議会
(新潟市･新潟テルサ)
10月　5日(日)／新潟市環境フェア(新潟市･万代シテイ通り)
10月18日(土)／第21回鉄道の日記念イベント(新潟市･新潟駅南口広場)

●高崎支部
10月23日(木)･24日(金)／関東甲信越支部連絡協議会(群馬県安中市)

●東京支部
9月18日(木)／利用促進会議 企業見学会(横浜市･日清オイリオ ウェルネスギャラリー、(独)海洋研究開発機構 地球情報館)

●名古屋支部
10月23日(木)／鉄道コンテナ基礎知識講習会
(名古屋貨物ターミナル駅)

●近畿支部
9月27日(土)･28日(日)／ひめじ環境フェスティバル2014
(姫路市･大手前公園)
9月29日(月)／グリーン物流セミナー
(大阪貨物ターミナル駅･吹田貨物ターミナル駅)

●広島支部
10月25日(土)／第21回JR貨物フェスティバル「広島車両所公開」

●九州支部
9月16日(火)／利用促進会議 企業見学会
(筑紫郡那珂川町･JR西日本 博多総合車両所／福岡市･アサヒビール(株)博多工場)

MONTHLY かもつ・9月号　第64巻・第9号　2014年（平成26年）9月1日発行（毎月1日発行）

発行／公益社団法人 鉄道貨物協会
〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-8-4 吹田屋ビル4階
☎03-5256-0577　FAX03-5256-9220
鉄道貨物協会インターネットホームページアドレス http://www.rfa.or.jp

編集／公益社団法人 鉄道貨物協会・日本貨物鉄道株式会社
（株）ジェイアール貨物・リサーチセンター
印刷／（株）恒陽社印刷所活版事業部

国土交通省

鉄道は、夏もCOOLにエコをシェア。

エコレールマーク
地球環境にやさしい鉄道貨物輸送を取り入れている商品や企業に、エコレールマークを認定しています。

国土交通省と環境省は、エコな鉄道をもっとエコにする、エコレールラインプロジェクトに取り組んでいます。

1. 省エネ車両の導入
2. 蓄電池の導入
3. LED照明化

旅客も貨物も、鉄道はエコ。鉄道の出すCO_2は、マイカー移動・トラック輸送の8分の1です。

COOL SHARE

クールシェア 検索

COOL SHARE
エコな夏旅始めよう。

クールシェアとは、家のエアコンを消して家族や友達と暑さを忘れて過ごせる場所に出かけることで、地球温暖化、節電につながる運動です。

Fun to Share
みんなの知恵で、低炭素社会へ。

Fun to Share 検索

熱中症予防強化月間!!

環境省 Ministry of the Environment × ひと涼みしよう 熱中症予防 声かけプロジェクト

ひと涼み 検索

無理せず熱中症対策しよう!!

MONTHLY かもつ

平成26年9月1日発行（毎月1回1日発行）昭和26年3月12日 第三種郵便物認可 MONTHLY かもつ 9月号 第64巻 第9号 本体価格400円（税・送料別 会員の購読料は年会費に含まれます） ISSN 0913-9850